

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	厚木愛甲環境施設組合ごみ中間処理施設	階数	地上6F
建設地	神奈川県厚木市金田字新1610番1ほか	構造	SRC造
用途地域	用途地域指定なし、法第22条区域	平均居住人員	45人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2025年7月1日
敷地面積	54,831 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社熊谷組横浜一級建築士事務所
建築面積	6,527 m <sup>2</sup>	確認日	2025年7月1日
延床面積	14,536 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社熊谷組横浜一級建築士事務所

  

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 1.3					
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★		30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★			
		<p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>			

  

2-4 中項目の評価(バーチャート)									
Q 環境品質									
Q1 室内環境			Q2 サービス性能						
Q1のスコア= 0.0			Q2のスコア= 3.9						
音環境	温熱環境	光・視環境	機能性	耐用性	対応性				
N.A.	N.A.	N.A.	4.1	3.7					
生物環境	まちなみ	地域性	Q3 室外環境 (敷地内)						
3.0	3.0	3.0	Q3のスコア= 3.0						
LR 環境負荷低減									
LR1 エネルギー		LR2 資源・マテリアル		LR3 敷地外環境					
LR1のスコア= 3.2		LR2のスコア= 3.1		LR3のスコア= 3.1					
建物外皮の	自然エネ	設備システ	効率的	水資源	非再生材料の	汚染物質	地球温暖化	地域環境	周辺環境
5.0	3.0	2.6	3.0	3.8	2.8	3.4	3.2	3.0	3.2

  

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
本施設は、構成市町村全域から発生する処理対象物を受け入れ、焼却処理を行い、処理の過程で発生する熱エネルギーの有効活用を図る高効率のごみ発電設備を備えたごみ焼却施設である。		
施設周りの積極的緑化を行いつつ、緑地のエリア(災害時廃棄物一時保管場所)を一体的に整備する。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
-	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	自動水栓・泡沫水栓などの省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。	広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減率)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される